

てづくりのつどい 8月31日

メイクル新聞

2024年秋号

編集・発行

社会福祉法人メイクルタウン
〒633-0065
奈良県桜井市吉備六三八ノ五
TEL 0744-04601540三
FAX 0744-04601540
メール info-nt@m5.kon.ne.jp



8月31日、土曜日。台風10号の動きが心配されましたが、結局雨が少し強い程度で済み、無事てづくりのつどいを開催することができました。
今年のテーマは「沖縄」です。沖縄に行ったことのある利用者さんは一人もおらず、沖縄料理を食べたことのある利用者さんもごくわずか。職員の提案の中から、「タコライス」、「ポーク卵」、「サーターアンダギー」を作ろうということになりました。
てづくりのつどいでは、これまでにドライフラワーアレンジメントや、くん製器づくり、草木染め、レイ（ハワイの首かざり）づくり、食べ物ではお鍋やギョウザ、まきずし等々、さまざまなか「てづくり」に挑戦してきました。大成功だったものも、大失敗したものもありましたが、この行事を通して、利用者みなさんが自分たちの手で何かを作り出す、生み出すということを楽しんでくれるようになったと感じています。



部屋をちょうちんで飾り、ガジュマルやシーサーの置物、やちむん（沖縄の陶器）をたくさん置いて、沖縄の料理屋さんに来たかのような雰囲気の中、つどいが始まりました。

ふだん調理をまったくしない利用者さんもいましたが、卵を割りほぐしたり、生地をこねたり丸めたりと、それぞれの役割を楽しみながら取り組まれていました。サーターアンダギーの生地が思ったより柔らかくて丸められないなど、いろいろなかハプニングが起こり、職員の方は常にアタフタしていましたが、利用者さんたちは全然動じていない様子なのがおかしかったです。
予定の時間を少しオーバーしての昼食は、タコライス、ポーク卵もずくスープ、さんぴん茶とどれもとても美味しく、「めっちゃおいしいわー!」、「沖縄を感します!」



など声が上がっていました。
食事の後はレクリエーションタイムです。職員がさわったことのない三線（さんしん）を3週間でマスター（！）し、そこにピアノとパーランクー（沖縄の打楽器）、指笛も加わって、ビギンの「三線の花」を演奏しました。利用者みなさんには、間奏部に「いやーサーサー!」という掛け声で参加してもらいました。
昼食はなかなかのボリュームで、みなさんお腹いっぱいになったはずでしたが、おやつは別腹。最後に、苦労して作った紅芋味と黒糖味のサーターアンダギーをさんぴん茶とともにいただき、閉会となりました。
毎日の作業のときよりもずいぶんリラックスした表情の利用者さんを見ることができ、わたしたち職員にとっても、本当に楽しいひとときになりました。

連載企画 職員のおふやき(第二十三回)

出会いに感謝 中島翔平

皆様初めまして。今年6月より入職しました、中島翔平と申します。よろしくお願ひします。
まずは、少し自己紹介をさせていただけたらと思います。
私は平成4年に北海道の田舎町、浦河町と言うところで生まれました。家族は父、母、弟の4人家族です。子供の頃から体を動かすことが好きでよく友達と川や海に行っては泥んこになって帰っていたことを今でもよく覚えています。
高校生までは地元で過ごし、大学進学をしましたが18年間地元の小さなコミュニティで過ごしていた私には都会の喧騒と新しい人との出会いが押し寄せてくる感覚で体調を崩してしまい1年ほどで在学を諦めてしまった経験があります。
その当時の出来事が今振り返れば大きな財産になったと思ってもいます。
こうして、地元に戻った私は次に働き口を見つけなければいけません。父、母ともに看護師であったことや地元で精神疾患、知的障がいを持たれている方への支援が行き届いている施設があり、そちらに入所されている方々が町中で働いている姿、地域交流として小さい頃からよく生活をともにしていた背景もあり、支援職を目指そうと思ひアルバイトをして自立資金を捻出しました。
20歳になったころ、改めて一人暮らしを始めまずは介護士として高齢の方のグループホームで働き始めました。

元々おじいちゃん子だった私ですので働くのはやりがいを感じていましたし、自立が始まった喜びにワクワクしていました。
ですが、それと同時に自分の人としての弱みにも悩み始めていました。それは、新しい人と会うことに人並み以上にストレスを感じやすいという事でした。そこから縁がありメイクルタウンのような授産施設で4年ほど生活支援員として仕事をしておりましたが、自分の今後のことを考えるとどうにかストレスを健全に受け取れるようになりたいと思うこと、もともと北海道以外の土地に興味があったこともあり、一念発起沖縄へ旅立つことを決心しました。新しい土地、環境に身を置く事で新しい自分に出会えることを期待していました。結果的にこれが大成功となりまして、自分の在り方に大きな変化をもたらしてくれました。今では新しい人に出会う事、新しい環境に身を置けることに感謝と幸せを感じています。
そして、今回メイクルタウンの職員として迎え入れていただけたことを感謝申し上げます。ありがとうございます。
入職して3ヶ月ほどが経ちましたが、職員のみなさま、利用者のみなさまには毎日笑顔と楽しい時間をいただいています。
仕事自体はつたなく、まだまだ迷惑ばかりをおかけしていますが、時間をかけて力になれるよう邁進してまいります。
また、利用者のみなさまのメイクルタウンでのお仕事、生活がより楽しくなっただけのよう尽力させていただきます。
今回はこのような挨拶の場をいただき、ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひいたします。